



第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会 ランチョンセミナー8

The 85th Annual Meeting of the Eastern Division of JDA

日時

2021年9月19日(日) 12:30~13:30

会場

ロイトン札幌 第2会場 2Fエンブレースホール

本セミナーはライブ配信も実施しております。

詳細は「第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会ホームページ(<https://eastjda85.jp/>)」よりご確認ください。

爪白癬の完全治癒を目指して2021 ～私ならこう治療する～

講演1

透析患者の爪白癬治療 ～ネイリンの治療経験を踏まえて～

座長

山本 俊幸 先生 福島県立医科大学 皮膚科学講座 教授

演者

菊池 信之 先生 福島県立医科大学 皮膚科学講座 助手

講演2

爪白癬 内服のすすめ

座長

澤村 大輔 先生 弘前大学大学院医学研究科 皮膚科学講座 教授

演者

福田 知雄 先生 埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 教授



透析患者の爪白癬治療 ～ネイリンの治療経験を踏まえて～

福島県立医科大学 皮膚科学講座 助手 菊池 信之

日本臨床皮膚科医会の足の疾患以外で皮膚科を受診した患者の足の検診結果では、足白癬の有病率は22%、爪白癬は10%と推計されている。足爪白癬は年齢が増すにつれて罹患率が高くなるが、血液透析患者ではさらに罹患率が高いとされている。

本邦の透析患者数は年々増加してきており、日本透析医学会によれば2019年の慢性透析患者数は33万人と報告されている。透析患者は末梢動脈疾患を有する頻度が高く、末梢動脈疾患から重症虚血肢に進展し、下肢切断を受けた透析患者の生命予後は不良である。透析患者の原疾患は糖尿病性腎症が39%と最も多く、易感染性を有しており、感染を伴うと重症化し、下肢切断につながる。胼胝・鶏眼、白癬などの治療は蜂窩織炎や壊疽などの感染症の予防に重要である。足爪白癬に用いられる抗真菌薬には外用薬と内服薬があるが、糖尿病性網膜症など視力障害を有する透析患者の場合、自身で外用液を正確に塗布することが困難なことがある。

今回、透析患者の爪白癬に対してネイリンを使用した治療経験について報告する。



爪白癬 内服のすすめ

埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 教授 福田 知雄

爪白癬は日本人の10人に1人が罹患しているとされる非常に患者数の多い疾患です。2014年以降爪白癬に保険適用のある治療薬が外用2剤、内服1剤が増え、現在外用2剤、内服3剤から治療薬を選択できる時代に入りましたが、患者数はこの20年で減ることはなく、推定1,100万～1,200万人と高い水準で維持されています。爪白癬は昔から治療に難渋する代表的皮膚疾患の一つと数えられてきており、中途半端な治療が高い再発、再燃の原因となっています。

再発、再燃を防ぐためには完全治癒が必須であり、内服薬を用いた重症化する前の積極的爪白癬治療は比較的高い完全治癒率を得ることに役立ちます。爪白癬は自身の問題だけではなく、家族・他者への感染拡大、高齢者では転倒・ロコモ・フレイル、糖尿病性壊疽の原因にもなるため、爪白癬の放置は大きな問題であると言わざるを得ません。爪白癬“内服のすすめ”の目指す大きな目的の1つは、「爪白癬における治療の第一選択は内服である」という医師、患者の意識を高めることにあります。

医師、患者の意識を高め、“爪白癬は軽症のうちに早く治す” 今回のセミナーではこの点を強く強調したいと思います。